

巻頭言

数学教育現代化運動が起こってから10年あまり、時おたかも1970年代を迎えるにあたり、わが東北数学教育学会が、ここにこの年報第1号を世に送ることができたことは、まことに喜ばしいことでもあります。

とりとえ、数学教育の基礎的・科学的な研究は、まだその緒についたばかりであり、幾多の未解決の問題、未開拓の分野をかみえております。私たちが会員はそとにむかって、ともにたずさえて研究の地歩を進めようべくこの学会を結成したのがありました。幸にして同志30名ばかりを得て、論文2編を含む充実した年報を編集することができましたのは、ひとえに学兄諸賢の御熱意によるものと世話人一同感謝しております。

目下、大学・高専を中心にして「数学教育学」の確立につき種々の議論がかわされております。本会も、東北の仲間、意志を反映して、この新しい学問領域の確立に力を入れたものと考えます。

東北の後進性も少しづつ解消しているようですが、数学教育においては、なお関東・関西に比べると若干のむけ目を感じないでもありません。本会がこの後進性を解除するに大なる力となり得ることを期待致しております。

終りに、会員諸学兄の絶大な御支援、御協力により本会がいよいよ2か年になり、本年報もますます立派なものになりますことを願っております。

一言、会員の総意を代表し、年報の発刊を祝し、巻頭の御挨拶申し上げます。

1970年4月

東北数学教育学会
世話人一同